常滑市民病院だより

発行者：病院長 中山　隆
編　集：病院広報委員会
第60号
2012年7月1日発行

～今年の新人たちです。よろしくお願いします～

— 第60号の内容 —

＊「副院長就任あいさつ」
副院長　鳥山　高伸

＊「副院長就任あいさつ」
副院長　滝　　昌弘

＊「新任研修医紹介」
研修医　山本　秀和

＊「下肢静脈瘤に対しての血管内レーザー治療（レーザー焼灼術）」
血管外科部長　中島　正彌

＊「地域連携室が正面玄関に移転しました」
地域連携室 副室長　長屋　博美

「副院長就任あいさつ」

副院長　鳥山　高伸

初めまして、今年４月より総合内科・副院長として赴任しました鳥山高伸です。昭和54年に名古屋大学卒業後、そのまま大学院に進みました。しかし、研究より臨床が面白くなり、大学院卒業後は蒲郡市民病院に赴任しました。そこで一般的な内科研修をした後に昭和59年に名古屋共立病院に赴任しました。腎臓・透析医療に従事しながら消化器内科も担当して広く内科全般の診療をしていました。透析患者さんは狭心症や心筋梗塞などの循環器系の合併症が多い為、平成７年からは循環器内科の研修を受けて、カテーテル検査・治療も始めました。循環器内科が充実した後には脳梗塞の診療に従事していました。様々な分野を経験しながら総合内科医としての医師人生を歩んでいました。しかし、何ともならない事情（私が悪いわけではありませんが）があり、昨年７月に名古屋共立病院を辞めて熊野病院に転勤しました。長いお付き合いをさせていただいた患者さんも多く、とても残念なことでした。熊野病院は精神科病院で精神科や認知症の患者さんの内科を担当しましたが、多くの精神科や認知症の患者さんの診療に触れたことは良かったと思っています。

名古屋大学での医師人生の始めに教えを受けた医師が優れた総合臨床医であったことも影響して総合内科の道を進みました。総合内科とはどんな科でしょうか。一つは特定の分野だけでなく、内科全般の臨床医としての訓練を受けた医師です。どこにかかったらよいかわからない時やいろいろ相談したい時に受診してください。また、定期通院の時には広く全身をチェックしながら病気をみていくようにしています。もう一つは病気の予防やリハビリにも関わる診療科であり、患者さんの仕事や家庭生活などの社会的な面にも関心を払う科です。これらのことは医師のみではなく、看護師・リハビリ（理学療法士・作業療法士・言語療法士）・ケースワーカーなどの多くの職員との共同作業になります（日常診療ではさらに多くの職員とのチーム医療です）。現在の私がこのようにできるわけではありませんが、これからも日々新たな気持ちで診療に当たり、後悔しない医師人生を送りたいと考えています。

民間病院から市民病院に変わり、いろいろ新しい体験もしています。民間病院も自院のことばかりや経済的なことばかりではなく、地域の医療や社会のことを考える公共性が求められています。また、自治体病院もできるだけ自治体に財政的な負担をかけない効率的な運営を求められています。

今後は民間病院も自治体病院もより公共的で効率的な運営に変わっていくと考えています。平成27年に新築移転しますが、新しい市民病院のモデル（常滑モデル）を職員や患者さんともども作りたいと強く願っています。是非、忌憚ないご意見をいただきながらご協力をお願いします。

「副院長就任あいさつ」

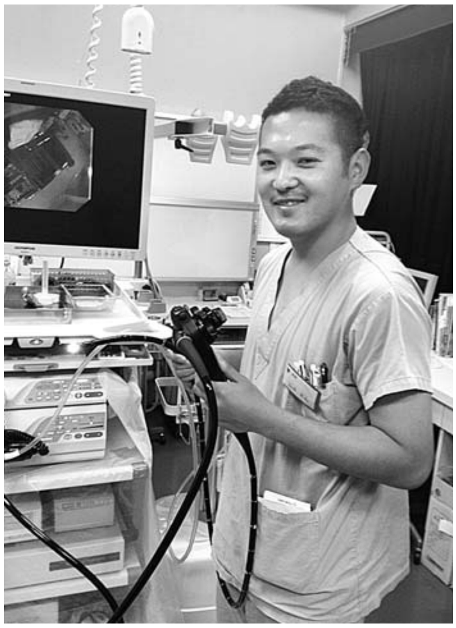
副院長　滝　昌弘

　この４月、副院長に昇任しましたので一言ご挨拶申し上げます。眼科部長として当院に赴任して25年になります。この間、市民の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。
　現在、新病院建設に向け着々と準備が進んでいます。市民の方々に信頼され、災害に強い病院となることでしょう。しかし現病院の医療をしっかり行うことがもっと重要なことと考えます。当院の職員の能力は決して他院に劣ることはありません。職員が能力を十分に発揮し、生き生きと働けるよう下から支えることが私の使命と心得ています。二人の副院長と協力して中山院長を補佐し、病院を良くしたいと思います。
　眼科部長も引き続き兼務します。今までと同様眼科診療も全力で行います。また研修医の教育責任者もしています。当院には１年次２名、２年次２名の研修医が所属しています。未熟なためご迷惑をかけることもあろうかと思いますが、よい医師となるため皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
　今後ともよろしくご鞭撻の程お願い申し上げます。
　余談ですが、先回お知らせした５月21日の金環日食は常滑では残念ながら見ることができませんでした。日本眼科学会では日食網膜症の全国調査を行っています。250人以上の人が眼科を受診していますが、当然のことながら当院には該当する患者さんは一人も受診されませんでした。また金星の太陽面通過もありましたが、この時も受診者はありませんでした。眼科医としては日食網膜症による失明者を出さなかったのはよかったと思っています。

・・・ 新任研修医紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成24年４月より新たに山本秀和（やまもとひでかず）研修医、椹木一仁（さわらぎかずひと）研修医が当院で働いております。
そこで今回山本秀和研修医に抱負を語っていただきました。

研修医　山本　秀和



　はじめまして、山本秀和と申します。今年４月から常滑市民病院で研修医として働いております。研修医紹介ということで、今回皆様にご挨拶する運びとなりました。私は高校卒業後、数年間会社勤めをしておりましたが、医師を目指して会社を退職し医学部に入学し、ようやく医師となりました。少し遠回りした道のりでしたが、医師として患者様のために働くことができ嬉しく感じています。
　当院で研修を始め早くも３カ月が経とうとしていますが、毎日先輩の先生方やコメディカルの方々の指導の下、少しずつですが医師として必要な知識や技術を身につけています。
　研修生活での目標は、医者としての成長はもちろんですが、いろいろな人とのコミュニケーションを大切にすることです。患者さん、スタッフとこれからも積極的に関わっていこうと思っています。
　まだ専門とする診療科は決めておらず、この２年間で多くの診療科をローテーションして、将来専門としない診療科も広く勉強していきたいです。
　特技は早寝早起きと人見知りしない点です。朝の回診や夜間に呼ばれた時のフットワークの軽さは今後も変わらず頑張っていこうと思います。
　医療者としては、まだまだ生まれたてのタマゴ程度です。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、真摯な気持ちは人一倍持っているつもりです。皆様のつらい症状・不安な気持ちを少しでも和らげるお手伝いができたら、大変うれしく思います。常滑の医療に少しでもお役に立ちたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻、助言苦言励ましなど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「下肢静脈瘤に対しての血管内レーザー治療（レーザー焼灼術）」

血管外科部長　中島　正彌

暑さ厳しき夏の到来が近づき、皆様にはますますご健勝の事と存じます。

気が付くと小生も常滑市民病院 小林英昭先生と知多半島の血管外科治療に携わり３年目になろうとしています。今回われわれは、今年４月から保険導入された下肢静脈瘤に対しての血管内レーザー治療について紹介させていただきます。最近テレビなどでもレーザー焼灼術を耳にする機会も多くなってきました。従来主に行われてきたストリッピング手術（静脈瘤抜去術）と同様に根治的な治療であり、傷口が少なく、術後の回復が速いため今後更に普及する可能性があります。

☆下肢静脈瘤とはどんな病気か？

英語ではVaricose Vein あるいは Varix（バリックス）といいます。この病気は立ち仕事で足をよく使う人に多く、性差では女性に多く見られます。また、高齢になると増えるため足の老化減少のひとつの現れとも考えられます。**下肢静脈瘤という病気は子供を生んだ経験のある成人女性の２人に１人、約半数の方が発症する身近な病気です。最近の調査では日本人の約９％の人に静脈瘤を認め、患者数は1000万人以上と推定されています。**

簡単に静脈瘤について説明すると、下肢静脈瘤とは血管内にある静脈弁がうまく働かなくなり、足の表在静脈が太くなって浮き出てコブになった状態をいいます。**足の血液が停滞して溜まり、足の静脈が極端に浮き出てきて目立つようになり、そのまま放っておくと、足のだるさやむくみ、かゆみや湿疹などの症状が出現します。あしの筋肉がつる、いわゆる「こむら返り」もおきやすくなります。最終的には皮膚潰瘍、色素沈着にまで進行することがあります。**分類としては、大きく分けると伏在（ふくざい）型　側枝型　網目状　クモの巣状の４タイプに分けられます。静脈瘤のなかでも「伏在静脈瘤」は最も太く、外来にみえる患者さんの約７割がこのタイプの静脈瘤です。さらに血管の太さが１～２mmくらいの「網目状静脈瘤」、血管の太さが１mm以下の「クモの巣状静脈瘤」と分けられます。

☆治療にはどのようなものがあるのか？

従来よくおこなわれている治療法は大別すると３つでした。それは弾性ストッキング、ストリッピング手術、硬化療法です。

弾性ストッキング・・・・　静脈瘤そのものが治るわけではありませんが、軽症例ではかなり効果が期待できます。

ストリッピング手術・・・　悪くなった血管内にワイヤーを通し、引き抜くことによって静脈瘤を取り去る手技で、静脈を引き抜き、さらに小さい皮膚切開により静脈瘤を切除するものです。手術の傷跡が残り、１週間程度の入院でおこなう施設が多いのですが、どんな大きな静脈瘤でも確実に治療できます。

硬化療法・・・・・・・・　直接静脈瘤に薬（硬化剤）を注射するものです。硬化剤は静脈を癒着させペシャンコにする接着剤の役割をはたします。

☆血管内レーザー治療（レーザー焼灼術）とはどんなものか？

レーザー治療は、正確には“血管内レーザー治療（endovenous laser treatment: EVLT）”と言います。静脈の中に細いレーザーファイバーを通して、レーザーの熱によって静脈を焼灼して閉鎖させてしまう方法です。以前から行われているストリッピング（静脈抜去）手術は、太ももの悪くなった表在静脈を手術で取り除きますが、レーザー治療は血管の中から静脈をふさいで血を流れなくしてしまいます。レーザー治療の良い点は、一言でいうと身体に優しい“楽な”治療です。従来のストリッピング手術では足のつけ根と膝の２ヶ所を切開しなければならないのに対し、レーザー治療では膝の内側に細い針を刺すだけで治療することができます。また、太ももの血管を引き抜かず、その場所で焼いて塞いでしまうので、出血や手術の後の痛みが少なくなります。

手術療法と比較して、レーザー治療によるメリットは、

- 侵襲（体に与えるダメージ）が極めて小さい。
- 傷口が少なく目立たない。
- 日常生活への復帰が速やかに行なえる。　などがあげられます。

当院は知多半島唯一のレーザー治療を実施できる認定施設です。そして集学的に一度の手術でレーザーだけでなく、２mm程度の皮膚切開による静脈瘤抜去、硬化療法を併用して施行しております。
気になる症状がございましたら一度外来を受診してみてはいかがでしょうか？

地域連携室が正面玄関に移転しました

地域連携室 副室長　長屋　博美

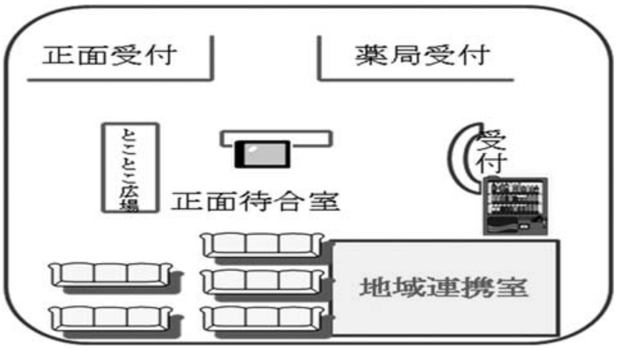
こんにちは、地域連携室です。「地域連携室」は、何するところ？とよく聞かれます。

今回、地域連携室のご案内をさせて頂きます。地域のみなさまに安心して生活していただくために、病気になられた時、地域の医療機関と連携して迅速に必要な治療が受けられ、医療だけでなく、保健・福祉の面からも皆様の生活を応援できる様連携を行っている部屋です。

スタッフは、副院長・医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師・外来主任看護師・医療事務です。

主な仕事内容

1．地域の病院や開業医・福祉施設との紹介患者の予約。
2．他の病院への転院・他の病院からの受入れの調整。
3．入院患者の自宅・施設への退院に向けて支援・調整。
4．患者・家族・来院者のご相談
　看護相談・社会福祉制度など。
　『どんな内容でも』ご相談を受け付けています。
5．広報活動：開業医に「地域連携室広場」で情報提供。
6．健康についての活動



以上の内容で活動しています。
正面にいますので当院に来られましたら、気楽に一度立ち寄ってみて下さい。

今年も６月24日（日曜日）に**アイアンマン70.3セントレア常滑ジャパン**が常滑市で開催されました。当院からもメディカルサポーター等として参加いたしました。天候にも恵まれ、良い大会となりました。

編集後記　今年の夏はエルニーニョ現象の関係で冷夏と言われています。日本国内の電力不足から節電が推奨される状況下ではありがたい自然現象です。それでもやはり夏です。暑い日は続きますが、当院では病院内の空調を夏季は冷房28℃に設定しております。蒸し暑く感じるかもしれませんがご協力お願いいたします。（編集担当）